



2017年6月5日～7日、浜松市で開催された第32回JEA総会において選出された新理事会メンバー12名

神の国の福音宣教を中心に

TCU(東京基督教大学)の「日本宣教リサーチ」のデータを見ると、プロテスタント教会の信徒数は2010年頃をピークにして明確に下降傾向に入っています。一世代前「はばたく日本の福音派」と言っていた時代は過去となり、その頃の蓄積を使い果たしつつ来て今や下降に入ったということです。私たちは、良き先輩の信仰の労苦に恵まれて歩んだことを思うと、次世代に対して、より良きパトナタッチをする責任があります。

ローザンヌ誓約(1974年)から40年余りを経ました。福音派が伝道だけに偏っていたのは良くなかった。「伝道と社会的責任」の両方がキリスト者と教会の務めだと受け止め直したのがローザンヌ誓約でした。今、伝道も、社会的責任も、どちらも危機的で、どちらも正念場を迎えています。伝道は進んでいないというデータですし、社会的な課題は、国家主義的動き、人よりも経済優先・社会階層の分断その他、要するに「神のかたち」に造られた尊い人格的存在である人間を大切にしない圧力が、活かすよりも殺す圧力が今、増えています。

「伝道か社会的責任か」どちらが大事か、ではありません。「社会的責任に取り組むと伝道が進まない」と言う人がいますが、私たちは、ローザンヌ誓約の精神に立って「伝道と社会的責任」の両方に取り組むのが本当の教会の姿であって、そういう教会は日本で健全に成長するのだと証して見せたいのです。「伝道と社会的責任」の両方を包むのは「神の国」です。「神の国」を視野に置かないと「伝道」と「社会的責任」が対立して見えてしまいます。「神の国」を上にと、伝道と社会的責任の両方を「包括的」に包んで、イエス様がなさったのと同じ質を持った福音宣教を実践をすることになります。

今の時代、目指す方向を明確にすることが大切です。目指す方向は、イエス様です。イエス様がもたらした「神の国」です。その「方向性

を明確に掲げつつ色々な立場を広く包含するのが望ましい路線だ」と私は思っています。

JEAは特定の教派教団ではないので、広い多様性を持っています。しかしそれぞれが勝手にやってくるのではなく、ある種の教会性を共有する一つの同盟として、皆が多様性を持ちながら同じ方向を目指すのだ、と確認しつつ進みたいと思います。では同じ方向とはどちらか、というと、それは神の国の「福音宣教」です。

つまり、神の国の方向を向くという方向性を明確にしつつ、多様性を大切にするのがよいと、思っております。一言で言

えば、「ベクトルは鮮明に、スタンスは広く」です。それに対して、ベクトルをもっと鮮明にすべきだとか、鮮明過ぎるとか、スタンスが広過ぎるから狭くせよとか、いや狭過ぎるとか、議論はあるわけですが、とにかく「ベクトルは鮮明にスタンスは広く」、がこの時代の福音主義には良いと思っています。

一つのポイントは、「ベクトルは鮮明に、しかしスタンスは広く」ではない。「ベクトルは鮮明に、そしてスタンスは広く」。「しかし」でつなぐと、どうしても二元論になり対立的な発想になりますが、「そして」でつなぐ。ベクトルを鮮明にしてこそスタンスは広く取れるのであり、スタンスを広く取ってこそ、鮮明なベクトルは本来の力を持って活かされると思っております。

昨年9月の第6回日本伝道会議(JCE6)で共有した日本宣教のビジョンを再確認し、神の国の福音宣教を担う労苦と恵みを共にしてまいりましょう。



廣瀬 薫 JEA 理事長
東京キリスト教学園理事長
日本同盟基督教団理事長

目次

巻頭言	1
新しい宣教委員会スタート 宣教研究部門担当者会議	2
JCE6プロジェクト/宣教フォーラム 隣人シンポジウム	3
青年担当者サミット 信教の自由セミナー	4
心のオアシスリトリート 天皇の代替わりに備える	5
聖書信仰の成熟を求めて 国内災害対策フォーラム	6
援助協会会計報告	7
JEAアップデート	8

新しい宣教委員会がスタートしました

中西雅裕 JEA 理事・宣教委員長
ホーリネス教団 横浜教会

昨年9月のJCE6(第6回日本伝道会議)からスタートした「宣教協力インフラとしてのJEAづくり」の一環として、JEA 宣教委員会は、①宣教フォーラム部門、②宣教研究部門、③異文化宣教ネットワーク部門の三部門制となり、メンバーも増員されました。

JEA 総会終了後の6月7日と8日に日本ホーリネス教団浜松教会をお借りして、恒例のJEA 宣教委員会リトリートが持たれました。今回は宣教委員会が三部門制となつてからの初顔合わせという意味も含め、14名が参加したリトリートとなりました。JEA 総会の報告とメンバーの自己紹介の後、三部門それぞれのプレゼンテーションというかたちでの報告が行われ、進められている働きの共有と課題を一緒に話し合う時となりました。

最初の日には異文化宣教ネットワーク部門が担当し、占める人口比率に応じてムスリムがどういふ布教戦略を取るかという、

宣教学者のインパクトの強い研究報告が紹介された後に、今までムスリム隣人シリーズを行ってきた経緯が話され、意見交換がなされました。

二日目午前は宣教研究部門の担当で、プロジェクト「日本宣教70 ▶ 100」の分析から出た日本宣教の課題として、①「次世代を育てる宣教インフラの整備」、②「ネットワークにより強化される地方伝道・都市伝道」、③「教会再生・増殖への道筋の明確化」の3つがあげられ、JCE7に向けて、これら3つ課題の解決に取り組んでいくというプレゼンテーションがなされました。

午後はJCE6の各プロジェクトと宣教フォーラムの関係や位置づけなどに関しての宣教フォーラム部門の今後の働きに関するディスカッションがなされました。各教団教派の宣教担当者が集まった宣教委員会リトリートは、多方面でネットワークを広げ、今後の宣教協力を進めて行く上で今回も意義があるものとなりました。

宣教現場の具体的な課題を分かち合う

教団教派宣教研究部門担当者会議レポート

福井誠 宣教委員(宣教研究部門)
バプテスト教会連合 玉川キリスト教会

去る5月8日午後、お茶の水クリスチャン・センターで、第一回目の宣教研究担当部門者会議が開かれました。参加は、日本ホーリネス教団、日本同盟基督教団、日本福音キリスト教会連合、日本イエス・キリスト教団、日本キリスト合同教会、基督兄弟団、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団、日本メノナイトブレザレン教団、日本ルーテル同胞教団、新生キリスト教会連合、友愛グループ教会連合、日本バプテスト教会連合、東京基督教大学日本宣教リサーチ、お茶の水クリスチャン・センター、在欧日本人宣教会などの諸団体から18名、初回としては小さな集まりとなりました。

初めに、宣教委員長の中西雅裕氏よりこの会議の趣旨として、①各教団教派の宣教研究部門の担当者が共に集まり、顔を合わせ、ネットワークを築く、②宣教に関して各教団教派で集められている情報を共有する、③各教団教派でなされている宣教研究の結果を分かち合う、④各教団教派が継続的な宣教の協力を進めていく礎を作る、が説明されました。

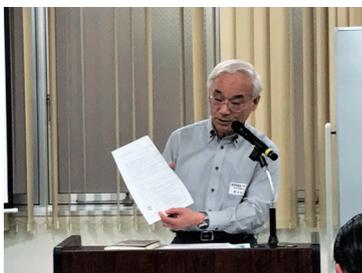
続いて、事例研究と発表として、東京基督教大学日本宣教リサーチの柴田初男氏から、WEB上で日本全国の教会情報を共有できるシステムの開発を目指す「宣教マップ」のプレゼンテーションがありました。また日本同盟基督教団趙南洙氏が同教団宣教研究所で実際に進めたアンケート調査についての報告がありました。現在、「教会自立への提言」を検討しており、そのために過去10年間で礼拝出席者が増加し、毎年受洗者が起こされている19教会を選び分析した結果について興味深い知見が紹介され、参加者の関心を集めていました。

最後に、二つのグループに分かれてお互いの教派・教団が抱

えている諸課題について有意義な意見交換の時間が持たれました。既存の教会の疲弊と存続の課題、教会間格差、会衆制または監督制という教会政治体系に基づく障害、長期的な次世代育成および献身者育成の対策、宣教師の減少と協力関係の変容、団体としての宣教戦略立案の困難性など、具体的な事柄が語られ、それによってお互いに共通の課題があることへの共感や、進んだ取り組みがあることへの気づきが与えられました。

この会議は、新しく設立されたJEA 宣教委員会の宣教研究部門により、諸教派・団体が抱えている実際の宣教現場の課題についてJEA 加盟諸団体に有用な情報提供および提案を行い、日本の福音宣教の推進強化に努めていくことを目的として企画されたものです。今後も、広く宣教研究及び戦略部門担当者や関心を持って研究や提言をされている方々にお集まりいただき、実際の宣教現場の課題とそのソリューションを見つけ出す場として企画してまいりたいと思っております。来年も同じ時期に会議を予定していますので、ぜひ、多くの団体にお集まりいただけると幸いです。

■宣教研究部門：中西雅裕(日本ホーリネス教団)、福井誠(バプテスト教会連合)、神谷典孝(日本福音キリスト教会連合)、下道定身(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)、趙南洙(日本同盟基督教団)、横田法路(日本イエス・キリスト教団)、柴田初男(TCU 日本宣教リサーチ)



JCE6 プロジェクトを含む宣教フォーラム部門の働きについて

牧野友隆 宣教委員（宣教フォーラム部門）
JECA 筑波キリスト教会

1. 新たな部門としての働き

JEA 宣教委員会の三部門化に伴い、2017年1月より、「宣教フォーラム部門」が発足しました。JEA「宣教フォーラム」は、これまでも基本的に宣教委員会の主催によって開催してきましたが、「宣教フォーラム部門」は、第6回日本伝道会議（JCE6）プログラム局の機能を引き継ぎながら、宣教フォーラムを毎年各地で開催し、JCEの間の期間をつなぎ、プロジェクトを継続します。

つまり、【JCE】—【JCE 発の各プロジェクト】—【宣教フォーラム】—【日本各地】をつなぐ働きを担います。

2. JCE6 プロジェクトの推進

★「日本宣教 170 ▶ 200」は終了、その他は継続

JCE6 では 15 プロジェクトが進められました。このうち「日本宣教 170 ▶ 200」は『データブック日本宣教のこれからが見えてくる キリスト教の 30 年後を読む』（いのちのことば社、好評により品切れ）の発行をもって終了し、その働きは新設された JEA 宣教委員会の「宣教研究部門」に引き継がれました。その他の 14 プロジェクトは 2023 年開催予定の JCE7 に向けて働きを継続しています。

各プロジェクトに対して JEA 理事の中からファシリテーターが立てられ、JEA 理事会や専門委員会との情報共有、協力の推進をサポートしています。

また、JCE6 から JCE7 への中間地点に当たる 2020 年には推進メンバーの次世代交代がなされる予定です。

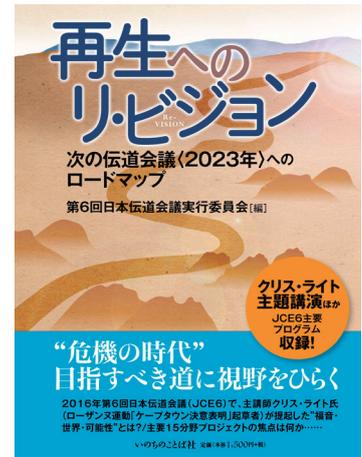
★各プロジェクトの働き、計画は『再生へのリ・ビジョン～次の伝道会議へのロードマップ』を参照

各プロジェクトの JCE6 のワークショップの内容や今後の計画につきましては、『再生へのリ・ビジョン～次の伝道会議へのロードマップ』（いのちのことば社）を発行予定ですので、こちらをご参照いただければ幸いです。クリストファー・ライト師の主題講演等も収録されており、JCE6 の貴重な記録となっています。プロジェクトの働きを諸団体、諸教会の宣教の働

きに活かしていただくための資料ともなり得るものです。ぜひご一読ください。

★ネットワークの拡大を期待しています

各プロジェクトは独自の会合やイベントを開催するほか、毎年開催される宣教フォーラムでも発題やワークショップを担当します。こうした中で、各プロジェクトの働きが諸教団・諸団体の関連委員会の働き、日本各地域での宣教協力に結びついていくことを願っています。各プロジェクトの会合や宣教フォーラムにもどうぞご参加ください。また各プロジェクトのリーダーとのコンタクトを希望される場合は、宣教フォーラム部門にご連絡ください。



3. 宣教フォーラム @KOBE

JCE6 後の最初の宣教フォーラムとして、本年 9 月 25 日(月)～26 日(火)に「宣教フォーラム @KOBE」を神戸市で開催します。多くの方々のご参加を期待しています。

また宣教フォーラムの開催を希望される他の地域の方々からのご連絡をお待ちしています。

■宣教フォーラム部門: 小平牧生 (基督兄弟団)、岩上祝仁 (イムマヌエル総合伝道団)、内村保 (日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)、和田治 (日本イエス・キリスト教団)、牧野友隆 (日本福音キリスト教会連合)

「隣人シンポジウム」振り返り

今回の宣教委員会リトリートでは、異文化宣教ネットワーク部門と宣教研究部門の協力で開催してきた「隣人シンポジウム」について振り返り、研修の時をもちました。

まず A 先生から「イスラム教の動向と布教戦略」というタイトルで発題していただき、イスラム教そのものとイスラム教宣教の最近の動向を知る機会となりました。国連加盟国の中で 57 カ国がイスラム協力機構加盟であり、全額奨学金によるイスラム圏への留学生招致等によって影響力が増大しています。韓国では、中東産油国への依存から、ムスリム留学生の誘致、ハラル奨励などが進み、大都市近郊にモスクが増えているそうです。キリスト教会側の対応策としては、長期間の忍耐と愛の奉仕を通して、神の哀れみによるムスリムの人々の目覚めと救いを願い、そのためにイスラムへの理解と対策準備、聖書の、神学的学びの重要性が語られました。

「隣人シンポジウム」はこれまでに 3 回開催してきました。イスラム教過激派組織 IS による日本人人質 2 名殺害のニュースが開催直前に入ってきた、2015 年 2 月の第一回シンポジウムでは「ムスリムの隣人を愛する」というテーマで、緊迫した空気の中 80 名ほどが集まりました。第二回(2016 年)、第三回(2017 年)は、実際にムスリムの方たちと関わっている方たちの発題を聞き、それぞれの関わりの中で何ができるのかを共に考えました。

今回のリトリートでは、「となりのイスラム」という本の紹介や、コーランを通じキリストを信じた人の証をユーチューブ

隣人シリーズ企画チーム: 神谷典孝 宣教委員(宣教研究部門)
松崎ひかり、永井敏夫 宣教委員(異文化宣教ネットワーク部門)

で視聴する機会もありました。今後に向けては、神学委員会と協力して企画する必要性や、JEA に問い合わせがあった際に紹介できるネットワークや人のリストがあるとよいだろうとの意見もありました。

私たちが「隣人」という時、ムスリムに限らず、他の信仰の方々や先祖崇拜者、無神論者なども含めた人々を「隣人」と見ていく視点が大切ではないでしょうか? どのように「隣人」に関わっていくかも含めた私たちの姿勢が、今後の「隣人シリーズ」の中でさらに共有されていくことを願っています。

異文化宣教ネットワーク部門は、JCE6 の「在外日本語宣教従事者の集い」(日本語を共通項として国内外をつなぐ)、「国内外国語宣教分科会」(日本という場所を共通項として異なる言語による宣教をつなぐ)、「ディアスポラプロジェクト」などのネットワーク同士をつなぐことを目的としています。ネットワークとネットワークをつなぐ広場(グローバル委員会)を数カ月に 1 回行い情報交換を継続しています。

・参考資料: 「ケープタウン決意表明(II C)」いのちのことば社
「となりのイスラム」ミシマ社

■異文化宣教ネットワーク部門: 原山いづみ(日本同盟基督教団)、松崎ひかり(JOMA)、永井敏夫(ディアスポラ協力)

青年担当者サミットレポート

飯田岳 青年委員
東京フリー・メソジスト教団 南大沢チャペル

日本福音同盟（JEA）青年委員会は、2018年11月22～24日に第2回日本青年伝道会議（NSD II）を開催する。青年委員会は、2012年に第1回NSDを開き、その後NSDセミナーを重ねて、昨年の第6回日本伝道会議（JCE6）でプロジェクト発表、分科会を実行した。

今回は来秋に迫ったNSD IIを念頭に置きながら、各教団教派の青年担当者が集まる「青年担当者サミット」を5月29日（月）にお茶の水クリスチャン・センターにおいて開き、意見交換を行った。

まず前委員長である西村敬憲師（西大寺キリスト教会）より今までの委員会の活動と日本の青年伝道の状況が総括された。「十年前と比べて青年宣教に関心が高まっている。青年委員会はビジョンのみならず、しっかりステップを積み重ねていく。ここで青年宣教の重荷を担う人々をつなげ、何が生まれるか期待する」と語った。

新委員長の早坂恭師（東村山福音自由教会）が「青年担当者の苦悩と葛藤Ⅱ」という題で基調講演を行った。自身の所属する福音自由教会を例に、牧師の平均年齢の上昇や、若い献身者・青年の減少など課題を述べた。グラフを使ったプレゼンテーションにはインパクトがあり、「うちも同じ」という声があちこちで聞かれた。前向きな取り組みとして、中高生全国キャンプや青少年担当の設置などを紹介。自身が教会で行うアイデアも披露。出席ごとにポイントをつける、LINE @を使って毎日メッセージを配信するなど、努力している姿が印象的だった。

その後、諸団体からそれぞれの取り組みが紹介された。インマヌエル総合伝道団は、蔦田聰毅師（堺キリスト教会）



の苦悩と葛藤Ⅱ」という題で基調講演を行った。自身の所属する福音自由教会を例に、牧師の平均年齢の上昇や、若い献身者・青年の減少など課題を述べた。グラフを使ったプレゼン

が「とにキャン」を紹介。90年代以降から子どもの教会離れが課題となり、全国中高生キャンプ「とにキャン」を発足。現在ではさまざまに波及して、社会人世代、子育て世代への働きも生まれている。教団内での理解・協力を地道に求めることの重要性にも触れた。

佐野泰道師（霞ヶ関キリスト教会）は地域協力の例として、中四国の西日本青年宣教大会と、賛美集会ビクトリーを紹介。春にビクトリー、秋に宣教大会を数十年に渡り実施している。「従来からあった協力の関係が働きを持続させた」と説明。青年たちは毎年顔を合わせているので交わりが深く、「一緒に育ってきた」関係になり、今ではたくさんの実りが見られる。

新しい動きとして、高尾浩史師（草加福音自由教会）が埼玉県のスカイツリーライン沿線の教会で始まった賛美集会シャマイムの報告。地域の教会の会合から青年宣教を呼びかけ、この度第1回目の集会を実施した。賛美バンドを持つ教会が奉仕して、中高生の参加も数多くあった。

中村宏章師（大野キリスト教会）からは、集会などで利用できる照明器具の紹介があった。最初は「盛り上げる」効果を予想していたが、「祈りに集中できる」雰囲気を作れると発見する。賛美と礼拝にふさわしい空間を演出できることや、新しい奉仕の機会を生み出せる利点などが、説明された。その後の分かち合いにおいてもこの照明の発表に関する反響は大きく、インパクトと新鮮さをもって受け止められた。

松尾献師（KGK 主事）から、KGK（キリスト者学生会）九州地区の大学生たちが準備した中高生キャンプ「たまご」の報告もあった。青少年の減少を課題にした九州地区の諸教会の祈りに応える形で開催された。大学生の超教派団体が中高生キャンプを主催するというのは、新しい考え方だった。キャンプの祝福と感謝が写真と共に紹介された。

青年担当者サミットの参加者は64名。発表の後は10のテーブルに別れて、分かち合いやNSD IIに向けてのアイデアを出し合う時間を持った。さまざまつながりが生まれ、今後のそれぞれにおける青年宣教に向けて励ましを受けた一日であった。

聖書信仰と信教の自由セミナー開催

上中栄 社会委員長
ホーリネス教団 旗の台キリスト教会

2016年11月25日、聖契神学校において社会委員会は、神学委員会との共催で「信教の自由セミナー」を開催した。共催としたのは、セミナー参加者の動員増、報告書の頒布拡大という下心（！）も多少はあるが、本意は別のところにある。

社会委員会は、基本的に「信教の自由」に関する課題に取り組んでいる。この言葉は憲法などに用いられる世俗の用語でもある。そのためか、なぜ教会が取り組むのかということが繰り返し問われる。それに対し、聖書に根拠を求めたり、キリスト教的な要因を掲げたりするが、その土台が意識されていないと、小手先の対応に終始することになる。

あるいは、信教の自由の課題は、憲法や最近ではいわゆる共謀罪や大嘗祭など、多岐にわたる。それだけに、目の前の課題に翻弄されがちになる。そこでも何が問題であるかを把握するためには、



教会の立ち位置を自覚する必要がある。

また、そもそも「信教の自由」とは公権力から自由のことであり、歴史的にはプロテスタント教会が勝ち取ってきた権利である。その経緯や意味を踏まえなければ、信教の自由をめぐる教会が発信する事柄は、独りよがりな正義や、単なる権利主張に陥る。

このように、信教の自由に関する課題に取り組もうとするならば、キリスト教の本質を問い、自らのあり方を模索する作業が必要となってくる。それはまさに神学することであり、そのために神学委員会にお力添えを願ったという次第である。

昨年のセミナーは、聖書信仰を軸として、神学委員会から関野祐二先生（組織神学・終末論）と山口陽一先生（歴史神学・日本的キリスト教の克服）に発題していただき、大きな示唆が与えられた。内容は、セミナーの報告書に詳しいので、ぜひお買い求めいただきたい。

今年のセミナーも、神学委員会との共催を予定している。特に、天皇の代替わりの影響について多角的に捉え、教会の自由が守られるために労していきたいと願っている。

流れのほとりて

No.22

藤田真木子 女性委員長
同盟基督教団 北総大地キリスト教会

「ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名をされるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。」
ピリピ人への手紙 4:3

振り返れば、女性委員会の発足は1990年。初代委員長の湊晶子師は、「福音宣教に生きる女性」をテーマに女性が一人の人格として生きることの大切さを聖書から紐解き、歴史の中で宣教を担った女性に焦点をあてて語り続けてきました。「男性も女性もどちらかの従属的存在でなく、響き合う存在である。共に聖書に学び、真の協力者として神の召しに答えていく。」そのような視点と問い掛けがありました。

去る、6月26日～28日、第12回心のオアシスリトリートの講師は2代目委員長の神津喜代子師でした。骨折の手術後の痛みの中「ヨブの夫婦の物語」との題で壮絶な試練

の中で神と格闘したヨブ夫婦からご自身の試練を重ね合わせ語りられました。それは神津師が委員長時代に取り組んだ「和解の福音・家族」のテーマと重なるものでした。

2017年7月、女性委員会は、節目の中でもう一度女性委員会の意味を問い直す機会を得ました。「家族」これは女性も男性も共に考えつづける課題です。やがて女性委員会から離陸させていくことを目指してその基盤を作っていきます。

そして、「宣教における女性の働き」これは女性委員会の存在意義ともいえるテーマです。聖書から離れた伝統文化や歴史の中で歪められた女性の位置付けに光を当て、キリストを頭とする教会で「主の召しに答えて生きるとは」を語り合い、考えます。

女性委員会27年の歩みの中で主から委ねられてきた使命を確認、継承します。それを教会に発信し、「ともに福音を広めることに協力する同労者」として任を担いたいと願います。

「心のオアシスリトリート」に参加して

石坂奈緒美 リトリート委員 / 救世軍神田小隊

今回は、「聖書の女性たち」をテーマに、神津喜代子師を主講師にお迎えしました。急な手術・入院後にもかかわらず、主は神津先生を支えてくださり、講演を通して、辛い苦しみの最中に主の深い憐れみと愛を得ることを、参加者一同知ることができました。

また、分科会講師の杉本玲子師よりカナンの女の信仰を通して御言葉からの力を頂き、唄野絢子氏から、霊的刷新が、ミ



ニストーリーに対する使命を確固たるものとした、との証しを、柏木道子師より、最後まで仕えて生きる為の示唆を具体的にいただきました。特に、あきらめないで頼み続け、謙遜かつ傷つかない姿勢で主にすがって行くカナンの女の信仰に私自身新鮮な気づきを得ました。分科会「21世紀のロイス、ユニケとして生きる」、A夫婦の成熟を求めて、B高齢者の生き方、からも恵みを頂き、神に仕えるお互いの新しい出会いと交わりによって、魂の飢え渇きが満たされ、新しい力と祝福をいただく3日間でした。

新委員自己紹介

矢島依枝 女性委員 / JECA 高森キリスト教会

2016年4月より、リトリート委員として加えていただき、一年を経て2017年7月に女性委員の働きに導かれました。第12回心のオアシスリトリートに関わり、教団教派を超えた主に在る交わりから多くの恵みをいただきました。

主に愛されている私らしく、謙遜に誠実に楽しく役割を果たしていけたらと願っています。どうぞよろしく願いいたします。

JEA 社会委員会

須田毅 社会委員
JECA 西堀キリスト福音教会

天皇の代替わりに備えて

JEA 社会委員会では天皇の代替わりについて改めて学習する必要を覚え、その助けとなる資料作成を計画している。現天皇は2018～19年には退位する見込みとのこともあり、作成を急がなければならないと考えている。

約三十年前、昭和天皇の死去に伴い、現天皇への代替わりがあった。神道行事が国の公式行事とされることについて、憲法上の政教分離原則に関わる問題だと、広く日本のキリスト教会全体の協力による取り組みが展開された。昭和天皇に関しては事前に「Xデー」と称して、その死去にどう対応するかを、日本社会全体が備えていた面もあった。キリスト教会でも新天皇即位時の大嘗祭や、天皇制そのものについて学習などを重ねていた。

昭和の最晩期、「天皇制の課題は、十戒の第一戒に関わる、信仰告白に関わる問題だ」と、日本のキリスト教会は改めて学んだのだと聞く。社会的問題でなく、信仰の問題だと多くの教会が受け止めたのであった。それから約三十年、「天皇制は第

一戒に関わる問題だ」との意識は、私たちの教会の中で深まっているだろうか。

その問いに対する答えは否であろう。深まるよりむしろ後退していると認めざるをえない。この世の力や異教に屈しないで、真の生ける神を愛し抜く、という私たちの信仰が強められるために、天皇制についても基本的な要点を、改めて、良く学ばなければならない状況がある。国家神道により神社参拝が強制されていた時代、弾圧を受けた教団教派に対して、他の教団教派は困難にある仲間を支援せずにその状況を見捨てたり、むしろ弾圧する側に立った言動をする、などの事例もあった。

真の神以外のものを恐れる時に、キリスト教会内部が割れていく姿は、「隣人を愛せよ」という戒めを教会が聞き取っていない姿でもある。「神を愛し人を愛せよ」との愛の律法に生きるために、この時期に天皇制の課題を共に学び直せるように、資料作成を急ぎたい。

牧師の本棚

「聖書信仰の成熟を求めて」
プロジェクトのこれから能城一郎 神学委員長
中央聖書神学校
関野祐二 前神学委員長
聖契神学校

■ JCE7(2023年)までの計画とお願い

これまで、JEA 神学委員会は理事会からの要請に基づき、その時々における神学トピックを研究し、成果を諸教会へ還元するため、定期的なブックレット刊行という形でそれを表してきた。具体的には、No.1『今日における聖霊の働きと日本の宣教一力の伝道に関する見解』（1994）、No.2『救済の神学—教会とキリスト者の社会的責任について』（1997）、No.3『聖書は輸血を禁じていない』（1998）、No.4『教会と国家』（2004）、No.5『教会の一致と一体性—福音派と公同の教会』（2005）、No.6『原理主義』（2006）、No.7『原発と私たちの責任—福音主義の立場から』（2013）である（かっこ内は刊行年）。

今回は JCE6 に向け、プロジェクトメンバー（JEA 神学委員）各々が、聖書神学・歴史神学・組織神学・実践神学の各専門分野において、「聖書信仰の成熟」に関わる研究を進め、年数回の神学委員会ミーティングや合宿において発表とディスカッションをし、相互研鑽によってそれを深め、ワークショップに備えて来た。JCE6 終了後、ワークショップ・コイノニアにおける8項目ごとの意見交換を踏まえ、ブックレットに掲載する論考を担当者がまとめ、2017年6月に、No.8となる日本福音同盟神学委員会編『聖書信仰の成熟をめざして』（いのちのことば社、全133頁）を刊行した。ここには、「聖書信仰と説教」を除く7項目について、各担当者の解説が収録されている。

本プロジェクトでは、今後このブックレットを諸教会に普及

させ、信徒が「聖書信仰」をより深くバランス良く理解して、福音とは何かをつかみ、福音に生き、ホリスティックな宣教に携わることができるよう促す。またこのブックレットを用いて福音派諸教会や諸団体における学び会をリードし、講師を派遣することで成熟した聖書信仰を浸透させる。さらに、新しいプロジェクトメンバーへと働きを引き継ぎつつ聖書信仰にかかわる神学研究を継続し、新たな項目や分野をも視野に入れながら JCE7 を目指す。

委員の任期満了に伴い、神学委員会は、以下のようにメンバーチェンジ（シェーファー、能城を除く）をしました。大半のメンバーが入れ替わるという状況に鑑み、一年間、関野、斎藤がアドバイザーとして、委員会に出席し、スムーズな引継ぎをすることになりました。皆様のお祈りをお願い申し上げます。

■旧・神学委員（～2017年5月）

関野祐二（リーダー）、鞭木由行、山口陽一、斎藤善樹、葛田崇志、能城一郎、ドナルド・シェーファー、佐々木望（ファシリテーター）

■新・神学委員（2017年6月～）

能城一郎（リーダー）、宮崎聖輝、吉川直美、篠原基章、千代崎備道、三浦譲、青木義紀、ドナルド・シェーファー、油井義昭（ファシリテーター）

補足：関野祐二、斎藤善樹の二名が一年間アドバイザーとして神学委員会に出席する。

JEA 援助協力委員会

第2回国内災害対策フォーラムを開催しました

石坂臣司 援助協力委員
救世軍 災害対策室長

梅雨の晴れ間 真夏日となった6月20日（火）お茶の水クリスチャンセンターにおいて、第2回 JEA 国内災害対策フォーラムを開催しました。10の教団と4の支援団体、援助協力委員会から合わせて18名の参加者がありました。

村上正道 JEA 援助協力委員長の挨拶と祈祷で始まり、各教団からの災害救援への取り組みが発表されました。支援団体（日本国際飢餓対策機構、救世軍、クラッシュジャパン、ワールド・



ビジョン・ジャパン）からは、それぞれの団体の取り組みと支援救援の特徴が発表されました。JCE6「災害対応を通して仕える教会」の取り組みの紹介として、岩上敬人師から「災害対応チャプレン養成」

についての発表があり、災害発生時に被災者や救援者ボランティアなどに対するチャプレンの働きの重要性を学びました。また栗原一芳師から「災害対応地域教会ネットワーク」の発表があり、災害大国である日本においては防災が大切で、地域の教会同士が繋がりを持つておくことが支援の拡張に繋がると学びました。

「熊本大分地震の事例から」の学びとして、現地で支援活動のコーディネートを経験した伊東綾氏から実際の支援活動の中で見た混乱や課題についての報告を聞きました。支援品を送る場合の注意点、SNSの情報にはタイムラグがあり、それを見て行動すると被災地とのギャップが大きくなってしまふことなどを知ることができました。

その後、三つのグループに分かれてディスカッションを持ちました。災害発生時にひとつの教会だけですべてを対応するには限界がある。その時に備えるという意味からも地域教会ネットワークが大切。顔を合わせていると緊急時にもすぐに協力し合うことができる。教会ネットワークに属していても直接支援活動に参加しないという選択も残しておくこと。JEA に所属している支援団体のもっているリソースなどを HP に、見て分かりやすく表示することができないか、等の意見が出ました。

具体的な災害対策支援ツールとして、品川謙一 JEA 総主事から、JEA 震災対策実務者限定 SNS グループの紹介があり、これは非公開グループのためより具体的な情報交換ができることでした。

緊急時に教団教派、教会が協力するためには、このようなフォーラムを通して顔を合わせ知り合っておくことが良い支援につながることを深く知り、今後も継続してこのような会を開くことに期待する声が多くありました。

◆◆援助協力委員会 2016 年度会計報告◆◆

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

収 入	科目	金額	支 出	科目	金額
	東日本大震災支援金	376,516		東日本大震災支援金	1,270,000
世界の自然災害への支援金(常設)	14,000	ネパール支援金	2,604,105		
常総市支援金	129,310	常総市支援金	350,000		
熊本地震支援金	14,082,512	熊本地震支援金	12,070,000		
援助協力基金献金(常設)	103,500	台風被害支援金	470,340		
援助協力基金への繰入金	730,117	諸経費/ネットワーク支援/事務所費	2,618,748		
雑収入合計	553	支出合計	19,383,193		
前年度繰越金	21,036,296	収入合計	36,472,804		
収入合計	36,472,804	支出合計	19,383,193		
		次年度繰越金	17,089,611		

《献金者リスト》 (敬称略・順不同) 2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

●援助協力基金(常設)

清瀬バプテスト教会、東京7-7/21 小金井教会、長津田みなみキリスト教会、長津田キリスト教会、

●東日本大震災支援金

あやめ池教会、麻溝台教会、シオンキリスト取手教会、ファチャゴッド川崎キリスト教会、東京7-7/21 小金井教会、小田原荻窪教会、世界福音伝道会、日本神の教会連盟、浅井慎也、

●世界の自然災害への支援金(常設)：泉キリスト教会、めぐみの丘チャペル、横浜シオンキリスト教会

●常総市への支援金：日本フリーメソジスト教団

●熊本地震への支援金

J C B A R e l i e f、イエス福音教団、活けるキリスト一麦教会、基督兄弟団、世界福音伝道会、日本神の教会連盟、日本長老教会、日本フオースクエア福音教団、日本フリーメソジスト教団、チャーチオブゴッド、日本聖契キリスト教団、日本聖契キリスト教団(台湾カベナント)、日本同盟基督教団、日本メノナイトブレザレン教団、保守バプテスト同盟、日本キャンパスクルセードフォークライスト、医療法人社団誠志会

姉ヶ崎キリスト教会、あやめ池キリスト教会、イエスキリストファミリー教会、池戸キリスト教会、活けるキリスト一麦西宮教会、石岡シオンキリスト教会、礎キリスト教会、和泉中央キリスト教会、いづみホープチャペル、伊勢崎キリスト教会、市川北バプテスト教会、今市キリスト教会、インマヌエル中目黒教会、印西牧の原キリスト教会、宇治バプテストキリスト教会、汐の群美しが丘グリーンチャペル、エイコークリスマンチャーチ、大阪セントラルグレースチャペル、大館ルーテル同胞教会、大津福音教会、大野キリスト教会、大野キリスト教会教会学校、岡山市民クリスマス実行委員会、福音伝道教団小川キリスト教会、小倉台キリスト教会、貝塚聖書教会、柏グローリーチャペル、柏シャローム教会、春日井栄光キリスト教会、春日井福音キリスト教会、学研都市キリスト教会、門真バプテストキリスト教会、蟹江キリスト教会、可児キリスト教会、鹿沼キリスト教会、東京 FM 川越国際キリスト教会、川崎キリスト教会 ユース、川崎南部キリスト教会、岸和田東聖書教会、ルーテル同胞北秋田キリスト教会、北松戸希望教会、北本福音キリスト教会、木之本キリスト教会、希望キリスト教会、希望キリスト教会祈りの家、清瀬バプテスト教会、キリスト教東京鶴の木教会、キリスト合同板橋教会、キリスト合同御宿教会、キリスト合同東浦和、キリスト合同屋代教会、コイノニアクリスマンチャーチ、越谷福音自由教会、日本 FM 五條キリスト教会、基督兄弟団境キリスト教会、境キリスト教会、堺中央キリスト教会、相模原一致祈禱会、日本 FM 桜井聖愛教会、佐倉王子台チャペル、幸手キリスト教会、札幌クリスチャングループ、佐野オーリーブ教会、汐ノ沖教会蒲田教会、汐ノ沖取手教会、汐ノ群札幌キリスト宣教会、志賀キリスト教会、周東のぞみキリスト教会、徐偉(GICC)、湘南コミュニティチャーチ、昭和聖書教会、新宮キリストバプテスト教会、巣鴨聖泉キリスト教会、鈴鹿キリスト教会、聖書キリスト教会ビジョンチャーチ、西武柳沢キリスト教会、世田谷中原教会、高岡バプテスト教会、高岡バプテスト教会教会学校、高崎キリスト教会、玉川上水キリスト教会、多摩ニュータウンキリスト教会、チェンマイ日本語教会、茅ヶ崎シオンキリスト教会、茅ヶ崎聖契キリスト教会、千葉ニュータウンバプテスト教会、ファチャゴッド川崎キリスト、ファチャゴッド鶴岡キリスト教会、ファチャゴッド錦キリスト教会、調布南教会、筑波福音基督教会、鶴見聖契キリスト教会、天白キリスト教会、東京 FM 青梅キリスト教会、東京 FM 小金井教会、東京 FM 南大沢チャペル、東京ホサナ教会、東京カベナントキリスト教会、所沢聖書教会、所沢聖書教会バザー、所沢バプテスト教会、戸塚めぐみキリスト教会、豊橋のぞみキリスト教会、取手教会、なにわ・ブラック・ベッパーズ、鳴滝キリスト教会、西船橋キリスト教会、日進キリスト教会、日本イエス岡南教会、日本 FM 大阪キリスト教学院教会、日本長老交野キリスト教会、日本長老教会愛知地区教会さんびの集い、日本バプテスト基督新小岩教会、日本 FM 阪南キリスト教会、日本 FM 東住吉キリスト教会、日本 FM 堺キリスト教会、日本7-7/21 宇治教会、練馬バプテスト教会、ハイランドキリスト教会、蓮沼キリスト教会、八王子中野キリスト教会、初石聖書教会、羽生キリスト教会、榛名キリスト教会、ハレルヤコミュニティチャーチ、ハレルヤチャペル滝沢、東大和刈穂キリスト教会、ビジョンチャーチ、日高教会、日高キリスト教会、日高恵みバプテストキリスト教会、日立大久保キリスト教会、日吉ルーテル同胞教会、枚方バプテストキリスト教会、藤が丘キリスト教会、伏屋キリスト教会、府中西原キリスト教会、仏子キリスト教会、ぶどうの木キリスト教会、ぶどうの樹キリスト教会内聖書を読む会、星田チャペル、巻キリスト教会、町田金井バプテスト教会、町田クリスチャンセンター、松田聖契キリスト教会、満濃キリスト教会、御園バプテスト教会、緑バプテスト・キリスト教会、南浦和教会、六日町キリスト教会、武庫川キリスト教会、沼津シオン・キリスト教会、森の上キリスト教会、守谷キリスト教会、守谷バプテスト教会、守山キリスト教会、八街福音キリスト教会、八千代キリスト教会、山形城西キリスト教会、百合ヶ丘バプテスト教会、横浜金沢文庫キリスト教会、横浜キリスト福音教会、横浜緑園キリスト教会、四日市キリスト教会、洛陽バプテスト教会、和歌山西バプテスト教会
アグネマ、新居孝彦、新井竜治、五十嵐康子、長石吉久、野澤公子、藤田 勉、宮崎奈美、ミヤモト ツトム、イジマ サチ、墨谷まり子、篠崎 和・証子、スガワライチロウ、佐居節子、竹内美幸、堀井康代、長谷川葉子、守川初穂、聖ルカ国際大学佐居由美、

* 支援献金は以下の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします

●郵便振替：00190-5-7790

加入者名：(JEA) 日本福音同盟援助協力委員会

●三菱東京UFJ銀行：神保町支店

加入者名：JEA 日本福音同盟援助協力委員会 委員長 村上正道 013-0305243

* 三菱東京UFJ銀行へ振り込まれる場合は、メールかFAXでお名前、住所、連絡先をお知らせください。

JEA アップデート

第 32 回 JEA 総会が開催され、新理事長に廣瀬薫師が選出されました



諸教団・教会、宣教団体から約 140 名が出席



新・旧理事会メンバーと植木師、ブジジャント師夫妻

第 32 回日本福音同盟 (JEA) 総会は、2017 年 6 月 5 日～7 日、静岡県浜松市で、諸教団・教会、諸宣教団体から約 140 名が参加して開催されました。今総会では 3 年ぶりに理事の改選が行われ、以下の 12 名が 2017 年度～2019 年度の理事として選出され、廣瀬薫師が新理事長に就任しました。

理事長	廣瀬 薫	日本同盟基督教団
副理事長・JCE 担当	米内 宏明	日本バプテスト教会連合
副理事長	石田 敏則	シオン・キリスト教団
書記・JCE 担当	内山 勝	イムマヌエル綜合伝道団
書記	山崎 忍	ウェスレアン・ホーリネス教団
会計	寺田 文雄	日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
会計・社会委員会担当	星出 卓也	日本長老教会
宣教委員会担当	中西 雅裕	日本ホーリネス教団
神学委員会担当	油井 義昭	日本福音キリスト教会連合
援助協力委員会担当	船田 献一	日本イエス・キリスト教団
女性委員会担当	大嶋 博道	日本フリーメソジスト教団
青年委員会担当	船橋 誠	日本メノナイトプレザレン教団



次世代宣教について力強く語るブジジャント師

一日目夜のセミナーでは、アジア福音同盟 (AEA) 次期総主事のバンバン・ブジジャント師 (インドネシア) が「アジアにおける新たな福音の展開」と題して講演し、次世代宣教、特に弟子をつくる弟子を生み出していく聖書の原理とアジアでの実践について学ぶ機会となりました。また JEA 国際渉外室長の植木英次師が AEA 議長に就任したことを踏まえ、JEA がアジア福音同盟の中で重要な役割を果たすことへの期待も表明されました。



小グループ (コイノニア) によるディスカッション

2017 年度 JEA 事業計画のポイントは、昨年 9 月に神戸で開催された第 6 回日本伝道会議 (JCE6) で共有されたビジョンに沿って、JEA 自身を「宣教協力インフラ」として Re-VISION していくことです。その一環として今総会では「教団教派代表者の集い」、「協力会委員の集い」を開催して各団体リーダーたちの交わり・信頼関係構築をはかると共に、二日目午後には「宣教協力インフラとしての JEA」について 16 の小グループ (コイノニア) でのディスカッションを行いました。三日目朝の各コイノニアからの発表では、超教派の交わりの必要性、情報・リソースの地域格差への対応の課題、次世代宣教などにおける具体的な宣教協力前進への期待、などが報告されました。



閉会礼拝メッセージを語る廣瀬薫新理事長

二日目夜のシンポジウムでは、JEA の宣教協力インフラ化に向けて三部門に再編された宣教委員会各部門からの活動計画が発表されました。①宣教フォーラム部門は、JCE6 プログラム局の機能を受け継ぎ、JCE6 プロジェクトの継続をサポートすると共に、毎年、各地で JEA 宣教フォーラムを開催し、宣教協力の働きを JCE7 につなげていきます。2017 年度は 9 月 25 日・26 日に神戸で「JEA 宣教フォーラム@ KOBE」を開催します。②宣教研究部門は、JCE6 「日本宣教 170 ▶ 200」プロジェクトの流れを引き継ぎ、TCU 日本宣教リサーチとも連携しながら、日本宣教に関するデータ収集・分析を行い、毎年、JEA 加盟団体宣教研究部門担当者会議を主催して、教会の現実に立脚した宣教協力の推進をはかります。③異文化宣教ネットワーク部門は、JCE6 在外日本語宣教従事者の集い、国内外国語宣教分科会の流れを引き継ぎ、JCE6 ディアスポラプロジェクトなどとも連携しつつ、JEA のネットワークを活かしたグローバルイノベーション分野での宣教協力のお手伝いをしていきます。

JEA 総務局から

- ◆ 3 年に一度の理事・理事長選挙が行われ新理事会が始動しました。また宣教委員会の三部門化など JEA 自身の Re-VISION も進められています。JEA が日本における「神の国の福音宣教」の前進に大きく用いられていくようお祈りください。
 - ◆ 2023 年開催予定の JCE7 (第 7 回日本伝道会議) に向けて、JEA 理事会のもとに JCE 準備室が立ち上げられました。諸準備と JCE6 各プロジェクト推進のためにもお祈りとご協力をお願いします。
- 郵便振替：00160-5-483905 加入者名：日本伝道会議



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 51 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者：廣瀬薫 編集者：品川謙一
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL : 03-3295-1765 FAX : 03-3295-1933
email : adminoffice@jeanet.org
郵便振替：00150-8-68442 (口座名義：JEA)